

常任委員会の 所属変更について

～下記のとおり、変更がありました～

総務常任委員会

委員長	橋田 和征
副委員長	大嶋 秀敏
委員	福田 良二
	河野 正明
	藤木 保
	河野 一郎
	古川 紀満
	石川 洋一

建設経済常任委員会

委員長	野田 寛
副委員長	尾崎 治彦
委員	橋田 章
	徳永 雄一
	中村 友博
	山岡 祥二
	入江 学

民生常任委員会

委員長	堀川 三郎
副委員長	高田 幸夫
委員	栗崎 秀人
	長谷 誠一
	松野 孝敏
	末松 立身
	米村 和雄
	岡本 泰章

文教常任委員会

委員長	椎野 和代
副委員長	永木 伸一
委員	坂本 順三
	松下 倫三
	西村 智
	中山 弘幸
	楠田 浩

委員会 報告

今議会に提案された議案について、その審査をするにあたり開催された常任委員会における審査の経過と結果を報告します。

総務常任委員会

●宇城市ふるさと応援寄附条例の 制定について

「寄附金だけを考えたら非常に特典があると考えられるが、税収が減るということも考えられる。あわせて一般会計の予算編成が問題になってくると思う。そのところについてどのようになっているか」との質疑に

対し、「寄附金を多くいただき、寄附金他に逃げない工夫を行う必要がある。また、予算編成はその状況をみながら適時予算を組むしかない。寄附金の税額控除で他の市町村にいくら流出するかは全く予測ができず、6月の市民税の課税の時点で流出したかが確定する。当初予算編成では、何パーセント見込むか予測もたないのが現状である。市民全員分が流出したとしても所得割の10パーセントであり、実際にはこの何パーセントかであるので、予算編成に影響があるとは考えていない」との答弁があった。



ふるさと応援寄附パンフレット

●平成20年度宇城市一般会計補正 予算（第1号）について

「説明では、財政調整基金の残高は、今後の見通しでは約11億円とのことであるが、宇城市の財政需要からみて、また今後の歳出からみてどの程度のものか、どういう判断をしているのか」との質疑に対し、「厳しい状況にあると思っている。過去4回当初予算の編成を行ったが、歳入より歳出の方が上回るという状況であり、合併当初15億円の基金繰入をし、段々縮小してきて、今5億円の繰入れで収支の均衡が保てるというところまでできた。あと1、2年は2億円、3億円の収入不足というのが予定されるので、ここ2年若しくは3年は、財政調整基金に頼る部分が2、3億円ずつ必要になると思われる。そのためには、行革をさらに推進していく以外、財政調整基金をプラスにもっていく方法はないと見込んでいる」との答弁があった。

建設経済常任委員会

●平成20年度宇城市一般会計補正 予算（第1号）について

○園芸新たな挑戦強化対策事業費 補助金について

「この事業の本身はどういうものか」との質疑に対し、「県の単独事業として、JAが事業主体となり、生産部会が取り組むハウス施設の改良で、ガス発生装置や循環扇、また、谷部の自動開閉装置が対象となる。事業費の3分の1を県から事業主体へ直接補助する事業である」との答弁があった。

また、「この事業は、認定農家でなければ補助は受けれないのか」との質疑に対して、「認定農家という規制はないが、JAの生産部会の中で、3戸以上が同じ事業に取り組んだとき対象になる」との答弁があった。

○不知火海湾奥再編計画策定業務 委託料について

「農地排水対策という説明を受けたが、どういう取組なのか」との質疑に対して、「松橋地区を中心とした海拔ゼロメートル地帯の農地の営農環境の確保とあわせ、市民の安全で快適な生活を図り、地域の将来の発展のため、八代海湾奥部の「滞筋（みおすじ）」などの排水機能や漁場の改善を図る目的で、昨年度が実施した調査を基に国営事業として事業化を検討するものである。今後、学識経験者、県、漁



干潟化する不知火海